

「アマチュア」、「在野」、「挙動不審者」 —勉強、労働、生活

ゲスト：東琢磨（在野批評家）



職業化・専門化

(professionalization)というローカル化された労働のモードと、日常生活という再生産労働の時間の連続の中で、「アマチュア」、「在野」、「挙動不審者」はある種の外部性と他者性を確保する指標になるのではないか。マヤ・デレンの言う意味での、対象をプロフェッショナルよりもより良く「愛する者」(amateur)としての「アマチュア」は仕事と生活の円環にある亀裂をもたらさないか。

現在のアカデミアと文化産業の中で「アマチュア」、「在野」、「挙動不審者」となることは可能か。本が売れない時代に「在野」としてどう書きつづけることができるだろうか。文化産業の「中」で闘い、アカデミアの「中」でアカデミアに変形作用を与えることは今でも可能なのか。日常生活さえも不安定な中で、思考を続けるためにはどんな経済や関係性のインフラがあると良いのだろうか。

デレン、サイド等々のアマチュア論も参考としつつ、かつ実際の経験に即して考えながら、体験主義には陥らないための議論の場をもちます。

東琢磨：多摩美大中退（芸術学）、ディスクユニオン副店長（ラテンアメリカ音楽）を経て在野の批評家へ。『全世界音楽論』、『ヒロシマ独立論』、『ヒロシマ・ノワール』、『音のカー沖縄アジア臨界編』など。

話者：茹岑浩、佐々木圓和、呉松霖、任開濟、大塚一帆（その他の方々）

文献パッケージ：

Maya Deren, “Amateur vs. Professional,” エドワード・サイド 「専門家とアマチュア」, 井上間従文 「アマチュアの制作」, 東琢磨 「寺山修司—偉大なる挙動不審者」, 『ヒロシマ独立論』(抜粋), 「あらゆる空の下で—オールネットコールマン」(『全世界音楽論』から)

12月9日(木) 17:15~20:15 /会場：ズーム（井上「演習」および「共通ゼミ」受講の方は国際研究館4F 大教室）ズームリンクと文献パッケージをご希望の方はm.ionue@r.hit-u.ac.jpまでご一報ください。